

電動リクライニング車いす

ネオ

NEO-PRリクラ

共同開発：株式会社今仙技術研究所

取扱説明書



最高時速4.5km/h

NEO-PRリクラ45

最高時速6.0km/h

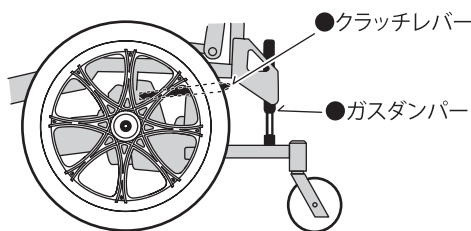
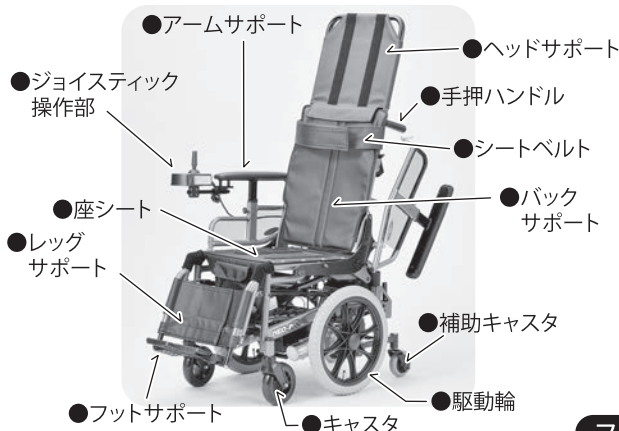
NEO-PRリクラ60

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。

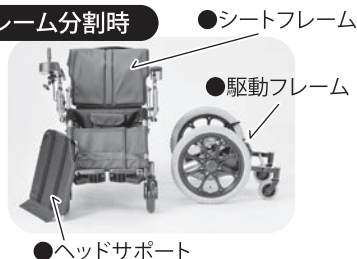
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。



各部の名称



フレーム分割時



仕様・サイズ

- 全長:104cm ●全高:136cm ●全幅:61cm ●バックサポート高:55cm
- ヘッドサポート高:90cm ●手押しハンドル高:95cm
- シート幅(アームサポート内々):40cm ●シート奥行:40cm
- アームサポート高:22~30cm(5段階調整式) ●キャスタ:6インチクッション
- 駆動輪:16インチ ●補助キャスタ:4インチ ●重量:39.4kg(バッテリー含む)
- リクライニング角度(座~背):95~145° 最大リクライニング時全長:165cm
- 耐荷重(積載物含む):100kg

※上記はシート幅40cm仕様のスペックです。

シンボルマークの説明

当取扱説明書内において、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、正しい取扱いに関する必要事項を、下記のシンボルで説明しています。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる危険が生じることが想定される場合を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害に至る可能性、または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 禁止	してはいけないことを示しています。



警告

- 乗車時は必ず、シートベルトを装着してください。シートベルトを装着しない状態や、シートベルトの位置が適切に調整されていない状態での使用はしないでください。
- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に取り扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- アームサポートやヘッドサポートを外した状態での使用はしないでください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪がロックされた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか十分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター・オートスロープ・動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。(踏切の横断は回避するか、介助者に同行してもらってください。)
- 手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、ヘッドサポート、シート、シートベルト等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。)
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 安全にご使用いただくために、この取扱説明書をよくお読みの上、操作方法と機能についてしっかりと理解してからお使いください。人通りの多い場所、坂道、悪路などへは、十分に運転に慣れてからお出かけください。不慣れた場所では、必ず介助者が同行してください。
- 車いすからはなれるときや、車いすに乗り降りするときは、必ず電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪を確実にロックさせてください。
- 改造や分解はしないでください。



注意

- バックサポートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落したり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと錆びやカビが出る場合があります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 水をかけたり、水につかるような場所で使用すると、ショートする可能性があります危険です。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 当取扱説明書内に記載の寸法や重量の値には、製造の都合上、多少の誤差がありますのでご了承ください。

目次

- | | |
|---|---|
| ●各部の名称・・・・・・・・・・ P 1 | ●フットサポートの跳ね上げか
た・・・・・・・・・・ P 11 |
| ●仕様・サイズ・・・・・・・・・・ P 1 | ●フットサポートの高さの調節
のしかた・・・・・・・・・・ P 11 |
| ●シンボルマークの説明・・・・ P 2 | ●フットサポートの前後位置角
度の調節のしかた・・・・・・・・ P 12 |
| ●警告・・・・・・・・・・ P 2 | ●レッグサポートパイプ角度範
囲の調節のしかた・・・・・・・・ P 13 |
| ●注意・・・・・・・・・・ P 3 | ●ジョイスティック操作部の前
後位置調整のしかた・・・・・・・・ P 13 |
| ●目次・・・・・・・・・・ P 3 | ●ジョイスティック操作部の角
度・高さの微調節のしかた・ P 14 |
| ●クラッチの切り替えかた・・ P 5 | ●ジョイスティック操作部の説
明・・・・・・・・・・ P 14 |
| ●フレームの2分割のしかた・ P 5 | ●バッテリー容量とバッテリーメー
ター及び走行状態の関係・・ P 15 |
| ●シートフレームと駆動フレー
ムの接続のしかた・・・・・・・・ P 7 | ●バッテリーの説明・・・・・・・・ P 15 |
| ●ヘッドサポートの着脱のしか
た・・・・・・・・・・ P 9 | ●バッテリー取扱いの注意事項・ P 16 |
| ●バックサポートの折りたたみ
かた・固定のしかた・・・・ P 9 | ●バッテリーのバッテリーボックス
への装着のしかた・・・・・・・・ P 16 |
| ●アームサポート高の調整のし
かた・・・・・・・・・・ P 10 | |
| ●アームサポートの跳ね上げの
しかた・戻しかた・・・・・・・・ P 10 | |
| ●バックサポートの張り具合の
調整のしかた・・・・・・・・ P 10 | |

- 充電器の説明・・・・・・・・・・ P17
 - (リフレッシュ放電)・・・・ P17
- 充電のしかた・・・・・・・・・・ P18
- 充電についての注意事項・・ P19
- 運転及び操作のしかた・・・・ P20
- 運転・操作時の注意・警告事項・・・・・・・・・・ P22
- 走行距離について・・・・・・ P22
- 使用前点検・・・・・・・・・・ P23
- メンテナンス・・・・・・・・・・ P23
- 保管方法・・・・・・・・・・ P23
- 不具合時チェックリスト・・ P24
- 電動操作ができない場合のエラーメッセージ・・・・・・・・ P25
- 充電ができない場合のエラーメッセージ・・・・・・・・ P25
- 諸元・性能・・・・・・・・・・ P26
- 公道を走行される時のお知らせ・・・・・・・・・・ P26
- ウレタン素材には寿命があります・・・・・・・・・・ P27
- 床材へのゴム汚染についての
ご注意・・・・・・・・・・ P27
- ジョイスティック操作部の角
度の調節のしかた・・・・・・ P28
- ジョイスティック操作部のレ
バーのバネ力の調節について
・・・・・・・・・・ P29
- 保証規定・・・・・・・・・・ P31
 - (品質保証書)・・・・・・ P31

クラッチの切り替えかた

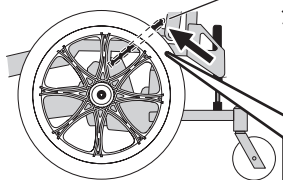


注意 クラッチレバーの切り替えは、必ず電源を切って行ってください。

「手押」操作時

クラッチレバー

左右のクラッチレバーを上に出げると、クラッチが切れて、駆動輪がフリーになります。介助者が車いすを押して操作する時に利用します。



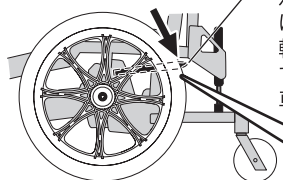
クラッチレバーがとまって、それ以上、上がらなくなる位置まで上げます。

「電動」走行時

電源を切って駐車する時

クラッチレバー

左右のクラッチレバーを下に出げると、クラッチが入り、駆動輪が固定されます。電動で走行する時、及び、電源を切って駐車する時に利用します。



クラッチレバーがとまって、それ以上、下がらなくなる位置まで下げます。



注意

足でクラッチレバーを操作しないでください。必要以上の力で操作すると、破損する恐れがあります。



警告

- クラッチレバーが、クラッチの入り切りの中間の位置にある状態での使用はしないでください。走行中や、駐停車中にクラッチが突然切り替わる可能性があり、危険です。
- 片側のクラッチを入れ、片側のクラッチを切った状態での使用はしないでください。



警告



衝突・転倒のおそれがあります。

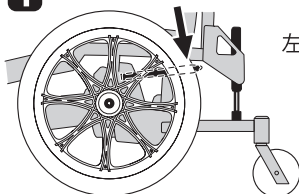
坂道では、クラッチレバーを「手押」位置（レバー上側）で使しないでください。

フレームの2分割のしかた



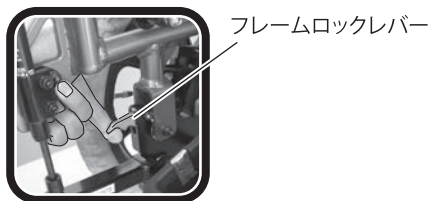
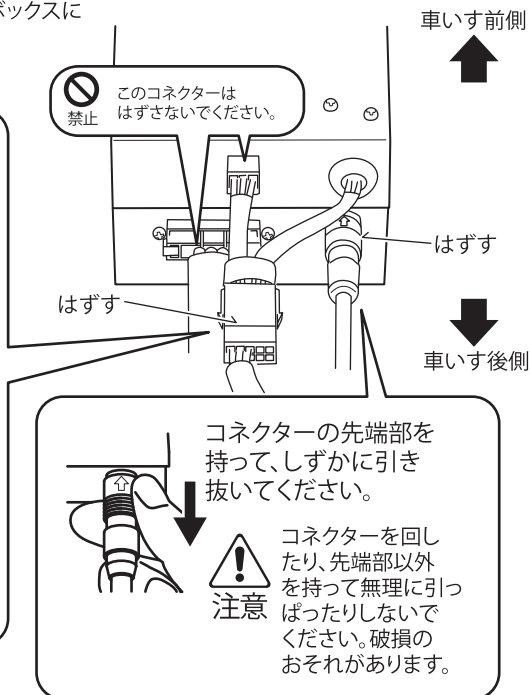
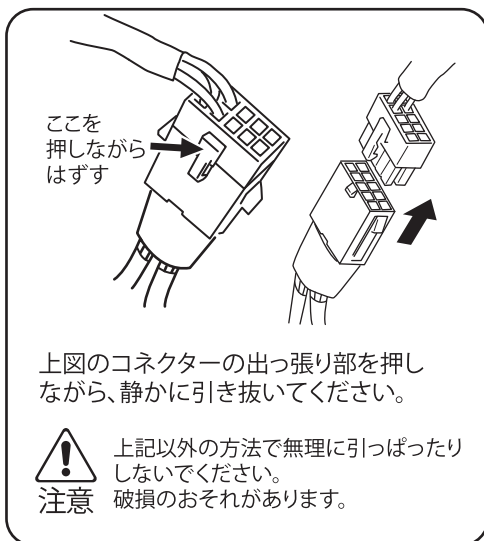
注意 フレームの分割は、必ず電源を切って行ってください。

1



左右のクラッチレバーを下げて、駆動輪をロック状態にしてください。

- 2** 座面の下の位置にある、駆動フレームの黒いボックスに接続している二つのコネクターをはずします。



写真のように、シートフレームとフレームロックレバーに手をかけ、フレームロックレバーを引き上げてください。



- フレームロックレバーを引き上げたまま、シートフレームを後方へ少し引きます。シートフレームのローラーが駆動フレームから分離します。
- フレームロックレバーから指をはなし、シートフレームをさらに後方へ引っばると、フレームを完全に分割できます。

5



シートフレームの手押しハンドルを持って、シートフレームを持ち上げ、駆動フレームから離れた位置へ移動させて、完了です。



注意

はずしたコネクタにゴミが付着したり、コネクタが水などに濡れたりしないよう、十分注意してください。



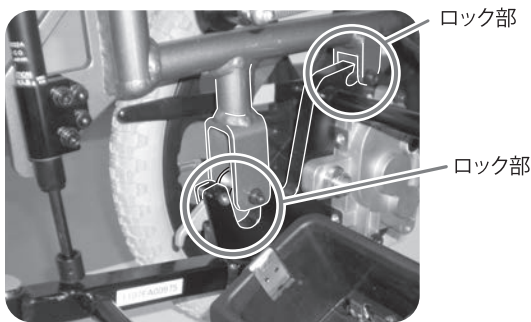
注意

フレームを分割する作業は、各部に手指や体をはさまないように、十分注意しながら行ってください。

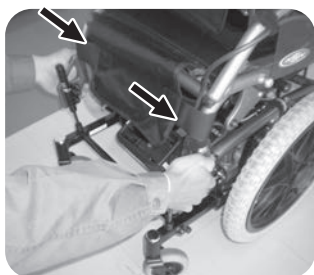
シートフレームと駆動フレームの接続のしかた

1 駆動フレームの左右のクラッチレバーを下げて、駆動輪をロック状態にしてください。

2 シートフレームを駆動フレームの上に移動し、左右計4箇所のロック部に正確に合わせて乗せます。



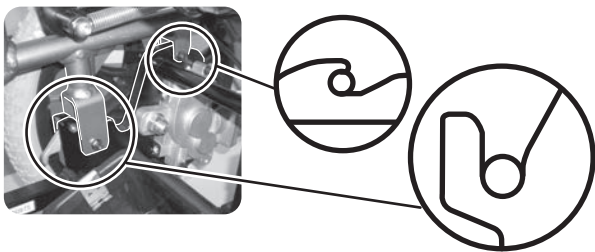
3



左写真のように、シートフレームを押さえながら前方へ押すと、カチッとロックします。

(手押しハンドルを持って、シートフレームを前方に押して、ロックさせることもできます。)

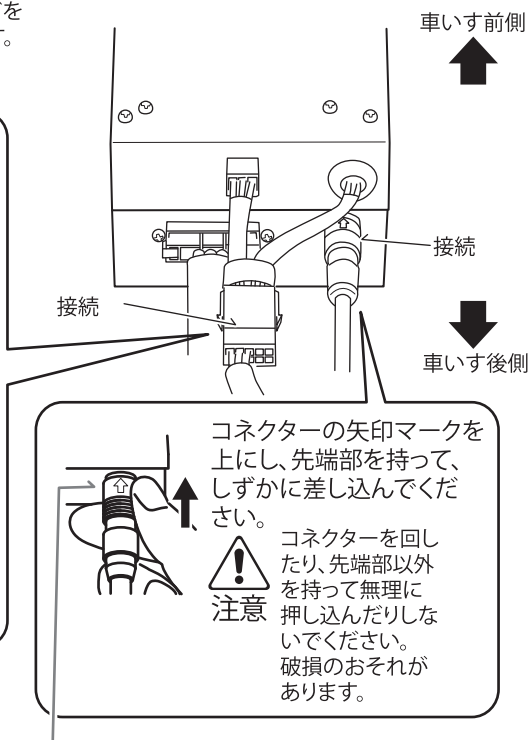
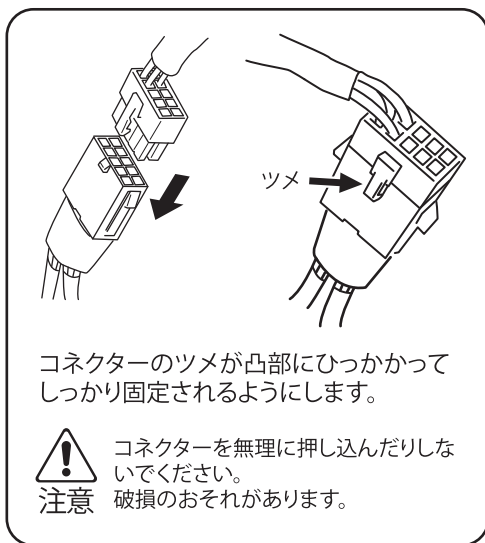
4



シートフレーム左右計4箇所のピンが、上図のようにしっかりとハマっていることを確認してください。

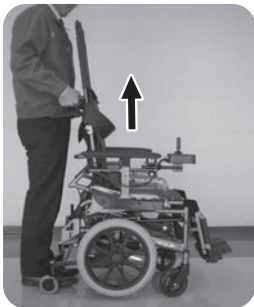
5

シートフレームから出ている2本のコードを
駆動フレームの黒いボックスに接続します。



コネクタの矢印をボックスの△マークに
合わせて差し込みます。

6



シートフレームと駆動フレームがしっかりと接続されているかどうか、手押ハンドルを持って車いすを持ち上げて確認してください。



注意

- フレームの接続は、各部に手指や体をはさまないように、十分注意しながら行ってください。
- フレーム接続時に、コードやコネクターを各部に挟んでつぶしたり、破損したりしないように注意してください。

ヘッドサポートの着脱のしかた



面ファスナー

外しかた

ヘッドサポートをバックサポートに固定している面ファスナーをはがすと、ヘッドサポートをバックサポートパイプから取り外すことができます。

取付けかた

ヘッドサポートを、バックサポートパイプに奥までしっかりと差し込み、面ファスナーをしっかりと貼り合わせて固定してください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた

1



2



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押ししながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

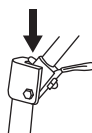


警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

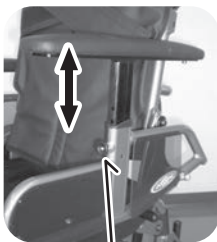


注意



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

アームサポート高の調整のしかた



調整用ボタン

- アームサポートを持ち、調整用ボタンを引いて、ロックを解除し、アームサポートの高さをゆっくりと上下させ、高さを調整します。
- 調整用ボタンがロックされれば調整は完了です。

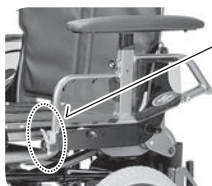


注意

- ・手指等を挟まないように注意してください。
- ・アームサポートが調整用ボタンでしっかりと固定されていることを確認してください。

アームサポートの跳ね上げのしかた・戻しかた

跳ね上げのしかた



アームサポート
跳ね上げプラグ



ロック解除

アームサポート先端のアームサポート跳ね上げプラグのレバーを後方に倒すと、アームサポートの固定(ロック)を解除することができます。ロックを解除して、アームサポートを上回転させるように上げてください。



戻しかた



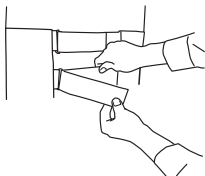
戻すときは、アームサポート跳ね上げプラグを握らずに、そのまま「カチッ」というまでアームサポートを押下げてください。



注意
警告

- アームサポートの跳ね上げは、電源を切り、左右のクラッチレバーを下げて駆動輪がロックされた状態で行ってください。
- アームサポートを跳ね上げた状態で車いすを動かさないでください。
- 跳ね上げて移乗する際は必ず、アームサポート跳ね上げプラグがバックサポートパイプの前に出ない位置まで跳ね上げてください。
- 戻すときには、アームサポートと座面の間やジョイント部に、身体や衣服が挟まらないように注意してください。

バックサポートの張り具合の調整のしかた



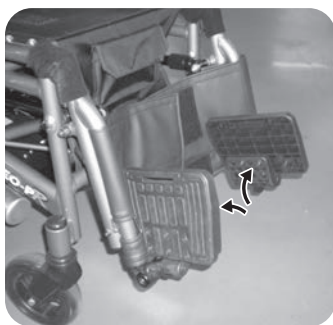
1. バックサポートシートとシートベルトをはずしてください。
2. 任意に面ファスナーベルトを緩めてしっかりと面ファスナーベルトを固定してください。
3. シートベルトを付けて、バックサポートシートをかぶせて完成です。



警告

- 使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
- バックサポートの張り調整は、必ず駐車状態でおこなってください。
- ベルトは5 cm程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、面ファスナーの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

フットサポートの跳ね上げかた



- フットサポートプレートを手で外側に跳ね上げることができます。車いすの乗降の際に跳ね上げます。

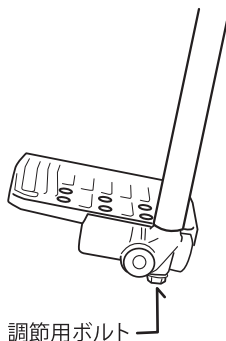
※レッグサポートがフットサポートプレートにあたって跳ね上がらない場合は、レッグサポート中央の面ファスナーをはずしてください。
フットサポートを下ろしたら、レッグサポートも元通りに貼り合わせてください。



警告

フットサポートの上に立ったり、腰掛けたりしないでください。

フットサポートの高さの調節のしかた

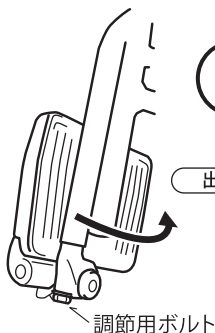


- フットサポートプレートの上にある、調節用ボルトを5mmの六角レンチで緩めて、フットサポートの高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。
(極端に強く締めすぎると、締付けクランプ部品が破損する場合がありますのでご注意ください。)



警告

- 調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。(極端に強く締めすぎると、締付けクランプが破損する場合がありますのでご注意ください。)
- フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から10cm以上の高さを確保するようにしてください。
- フットサポートの上に立ったり、登ったりしないでください。

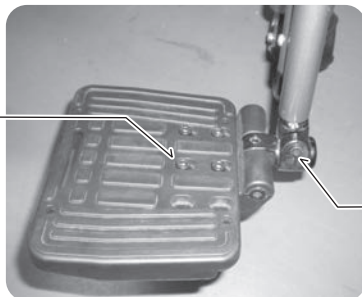


出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

出荷時

フットサポートの前後位置・角度の調節のしかた

フットサポート
プレート固定ボルト



フットサポート
角度固定ボルト

フットサポート前後位置の変更のしかた

フットサポートプレートをフットサポートベースに固定しているボルト、ナットを5mmの六角レンチで緩めてはずし、固定穴位置を変更することで、フットサポートの前後位置を4段階調節できます。

フットサポート角度の変更のしかた

フットサポート角度固定ボルトを5mmの六角レンチで緩めると、フットサポート角度を変更することができます。



警告

フットサポートプレートの前後位置調節後は、4箇所の固定ボルト・ナットをしっかりと締めなおして固定してください。

フットサポート角度の調節後は、フットサポート角度固定ボルトをしっかりと締めなおして固定してください。

レッグサポートを最も下ろして乗車した状態(バックサポートを最も起こした状態)で、キャストを旋回させてもフットサポートとキャスト輪が接触しないことを確認してください。キャスト輪とフットサポートが接触する場合は、接触しないように調節をしておってください。

フットサポートが地面に近いと、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から10cm以上の高さを確保するようにしてください。

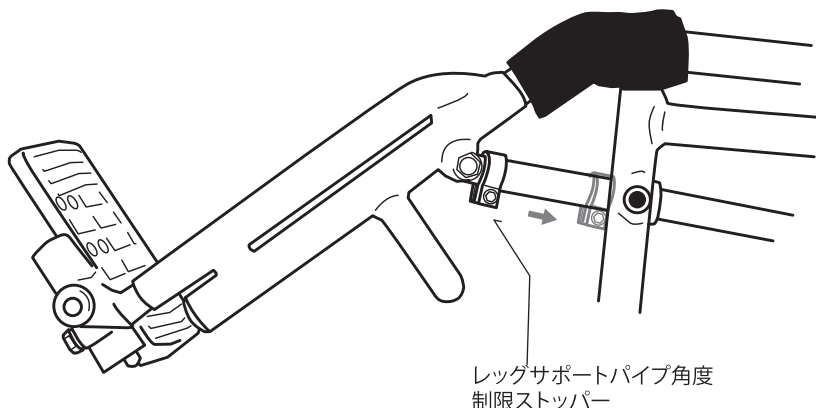


フットサポート前後位置・フットサポート角度の変更につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。

レッグサポートパイプ角度範囲の調節のしかた



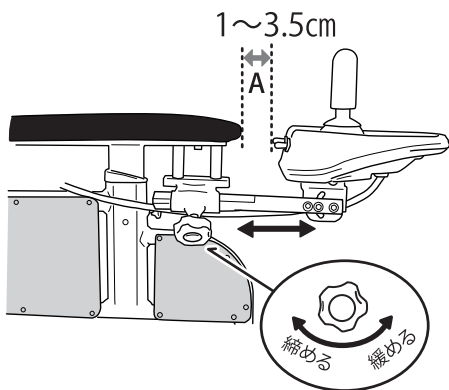
レッグサポートパイプ角度範囲の変更は、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼下さい。



ひざ関節が曲がらない方などをご使用の場合、リクライニング操作でレッグサポートパイプの角度を具合の良い位置で止め、レッグサポートパイプ角度制限ストッパーのボルトを5mm六角レンチで緩め、最後方までスライドさせ、緩めたボルトをしっかりと締めて固定してください。(左右とも行ってください。)

調節した角度から上へは挙上しますが、下には下がらなくなります。

ジョイスティック操作部の前後位置調整のしかた



ジョイスティック操作部のついている側のアームサポートパッド下のノブボルトを緩めると、ジョイスティック操作部の前後位置が調整できます。

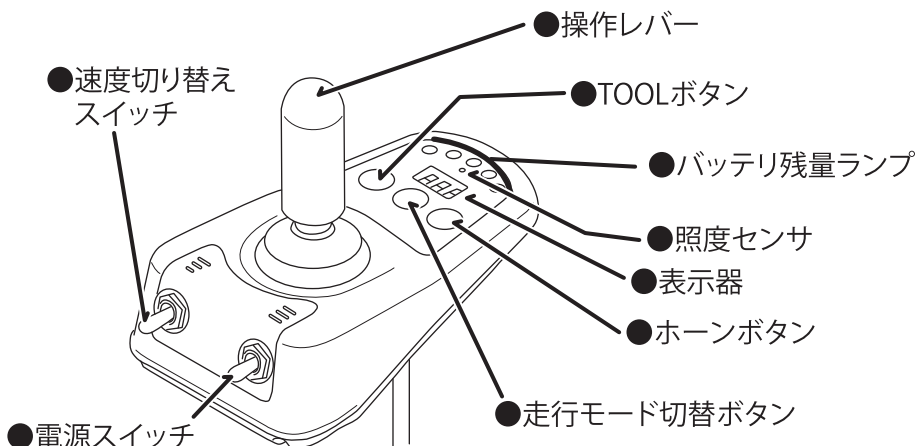
- 左図 A の寸法 (アームサポートパッド先端からジョイスティック操作部電源スイッチ及び速度切り替えスイッチ先端間距離) が 1 ～ 3.5 cm となる範囲で調整してください。
- 調整後は、ノブボルトをしっかりと締めて、ジョイスティック操作部が確実に固定されていることを確認してください。



注意

- 上記 A 寸法の条件は必ずまってください。
- ノブボルトがしっかりとしまって、ジョイスティック操作部がしっかり固定されていることを確認してください。
- ジョイスティック操作部の前後位置調整時にコードに無理な力がかからないように注意してください。

ジョイスティック操作部の説明



各部のはたらき

■電源スイッチ

上段：電源「入」走行

下段：電源「入」座席

下段：電源「切」

■速度切り替えスイッチ

上段：高速 中段：中速 下段：低速

■操作レバー

【走行】選択時

倒す方向で進行方向、倒す角度で速度を操作します。

【座席】選択時

前方向で「起きる」、後方向で「倒れる」を操作します。

■TOOLボタン

長押しでバッテリー残量をパーセンテージで表示します。

■バッテリー残量ランプ

バッテリー残量が表示されます。

※次頁「バッテリー容量とバッテリーメーターおよび走行状態の関係」参照

■照度センサ

周囲の明るさを検出し、LEDの明るさを自動で切り替えます。

■表示器

標準時は設定速度 (km/h) が表示されます。

■ホーンボタン

押している間ブザーがなります。

■走行モード切替ボタン

長押しで設定起動後、短押しで走行モードを切り替えます。

※出荷時は設定されていません。そのため切替ボタンを押しても表示は速度表示のまま切り替わりません。設定を希望される方はお買上の販売店にご依頼ください。



警告



注意

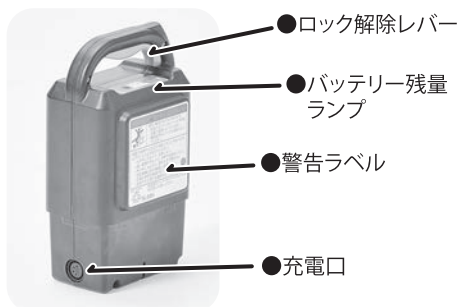
- 電源スイッチが「入」の状態で、無線・携帯電話等の使用をしたり、理学療法士の治療を受けるなどしないでください。
- 機器の故障や誤動作の恐れがありますので、水のかかるところや、濡れた手で使用したり、操作レバーを改造したりしないでください。
- 誤動作の恐れがありますので、磁石など磁力の強いものをジョイスティック操作部に近づけないでください。

バッテリー容量とバッテリーメーター及び走行状態の関係

バッテリー容量 (%)	バッテリー残量ランプ ●点灯 ○消灯 ★点滅	走行状態	表示器の表示例
100 ～ 80	● ● ● ● ●	標準速度	 TOOLボタンの長押しにより バッテリー残量をパーセンテージで表示します。
80 ～ 60	● ● ● ● ○		
60 ～ 40	● ● ● ○ ○		
40 ～ 20	● ● ○ ○ ○		
20 ～ 0	● ○ ○ ○ ○	10%未満で 速度 1/2	
0	★ ○ ○ ○ ○	停止	

バッテリーの説明

各部のはたらき



- 充電口
充電器の先端コードを差し込んで充電します。
※差し込み向きにご注意ください。
- ロック解除レバー
バッテリーをバッテリーボックスから引き抜くときに握りこんでロックを解除します。
- バッテリー残量ランプ
5灯のLEDを使用し、現在のバッテリー残量を表示できます。充電中は点滅表示により充電の進行を確認できます。



警告

バッテリーは使い方を誤ると、機器の損傷や火災・事故を引き起こすことがあります。以下のことを必ずお守りください。

- 火の中に入れたり、加熱しない。
- 強い衝撃を与えたり、分解や改造をしない。
(ケースが破損した場合は絶対に使用しない。)
- 水の中に入れたり、濡れた手で触らない。
- NEOPRILクラ以外の機器に使用しない。
- 人工呼吸器等の生命維持装置の電源に使用しない。
- 充電は専用充電器で行うこと。
- 各端子を工具や金属物などで接続しない。
- 走行中にバッテリーをバッテリーボックスから抜かない。

バッテリー取扱いの注意事項



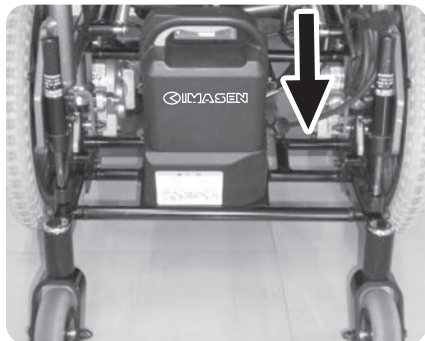
注意

- バッテリーの寿命は、使用場所、使用時間によって大幅に異なります。
- バッテリーを交換する場合は、純正のNEO-PRリクラ用バッテリーをご使用ください。
ニッケル水素電池 DC 2.4V 9.0AH
- バッテリーを使用せずに長期保管する場合は、満充電にしてから高温になる場所を避けて保管してください。
- バッテリーは使用していない時でも残量は少しずつ減っていきます。(自己放電)
使用しない時でも、2～3週間に一度は充電をしてください。
- 充電口、及びバッテリーの金属部分には金属製のものを近づけないようにしてください。また、異物がある場合は、取り除いてください。
- 使用済みのバッテリーは、リサイクル致します。そのまま廃棄せず、販売店までご連絡ください。



Ni-MH

バッテリーのバッテリーボックスへの装着のしかた



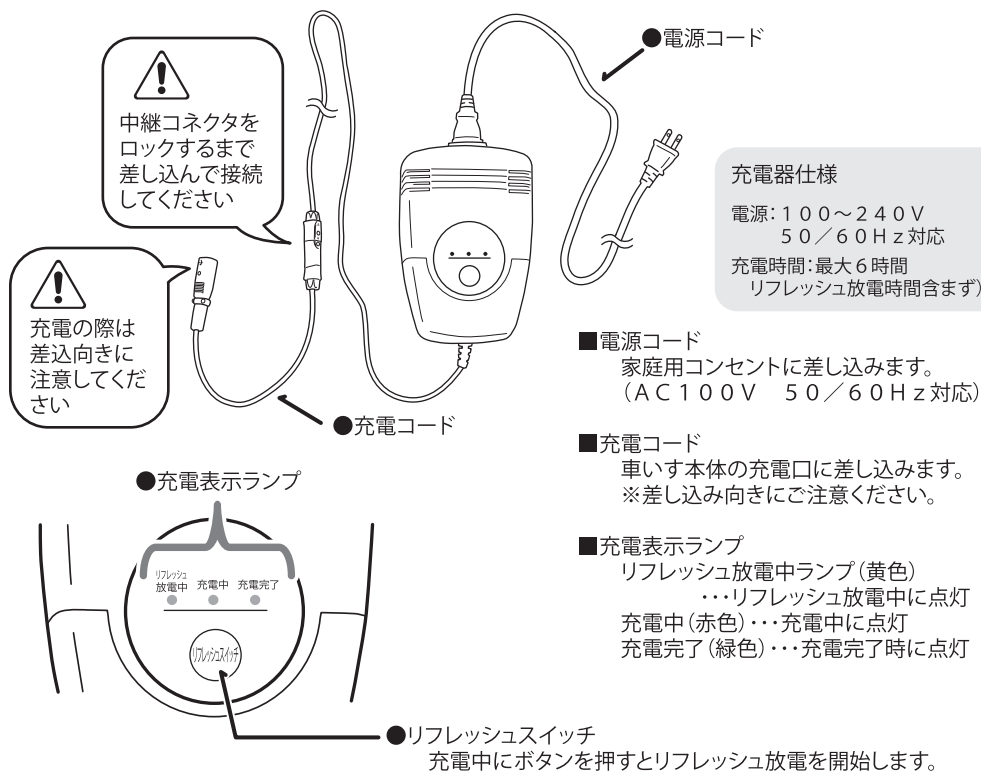
- バッテリーボックスに異物がないことを確認してください。
- 車いすを後方から見たときにバッテリーの「IMASEN」の刻印が見える向きで、バッテリーをすずかにバッテリーボックスに奥までしっかりと差し込んでください。



注意

- 装着後、バッテリーがバッテリーボックスにしっかりと固定されていることを確認してください。
- 向きを間違えたり、スムーズに入らない角度で無理にバッテリーを押し込んだりしないでください。

充電器の説明



リフレッシュ放電

NEOPRリクラのバッテリーは、ニッケル水素電池を使用しています。
「走行距離が短くなった」と感じる状態になりましたら、メモリー効果※の影響による場合があります。一度以下の手順で充電を行ってください。

●メモリー効果の除去方法

1. 次頁「充電のしかた」の手順(1~4)に従って充電を開始します。
2. 充電が開始されたら、すぐにリフレッシュスイッチを押します。
3. リフレッシュ放電中ランプ(黄色)が点灯し、放電が開始されます。
4. リフレッシュ放電後、自動的に充電が開始されます。

(注意) 満充電の状態からリフレッシュ放電を行いますと、最大18時間が必要です。
できるだけバッテリー残量が減った状態からリフレッシュ放電を行うようにしてください。

※メモリー効果…バッテリーの残量が充分に残っている状態で充電することを繰り返すと、バッテリーの容量が見かけ上、少なくなったような状態になる現象です。

このような場合にリフレッシュをおすすめします。

- 「最近、バッテリーの減りが早くなった」と感じたとき。
- 2ヶ月以上製品を使用しなかったとき。



警告

感電のおそれがあります。濡れたプラグや、濡れた手で充電しないでください。

つぎのような場所では充電しないでください。

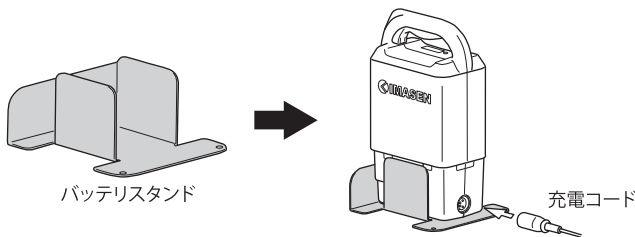
- 雨露を受ける場所
- 湿気の多い場所

充電器の分解や改造は、故障や火災の原因となりますので絶対にしないでください。



充電のしかた

1. 左右のクラッチレバーを下げて、電源スイッチを「切」にし、駐車状態にしてください。
2. バッテリーを単体で充電する場合は、バッテリーのロック解除レバーを握りながら、バッテリーをバッテリーボックスからしずかに取り出します。
※バッテリーを車いすのバッテリーボックスに装着しない状態で充電する際は、付属のバッテリースタンドを使用し、バッテリーを立てて充電してください。バッテリースタンドは水平で安定した場所に設置し、バッテリーが倒れないように注意してご使用ください



バッテリースタンド

充電コード

3. 充電器の電源コードを家庭用コンセントに差し込み、充電コードをバッテリーの充電口に差し込んで、充電器の電源スイッチを「入」(入)にします。
※バッテリーをバッテリーボックスに装着したまま充電する場合は、バッテリーボックス右側面のフタを回転させると、充電コードをバッテリーの充電口に差し込むことができます。
4. 充電器の電源ランプ(赤色)が点灯します。
5. 充電が完了しましたら、2～3の逆の手順で充電を終了します。

表示色と充電状態のランプ	黄	赤	緑	意味
	○	●	○	充電中です
	○	○	●	充電完了です
	●	○	○	リフレッシュ放電中です
	○	☆	○	バッテリーの温度が上昇し、待機中です。

記号
●:点灯
○:消灯
☆:点滅

※充電範囲外

バッテリー保護のため、バッテリー温度が0～45℃の範囲外の場合は、充電を開始せずに待機状態となります。適温になりましたら自動的に充電を開始します。



注意

- 充電が終了しましたら、必ず充電コードを抜き、電源コードをコンセントから抜いて、充電を終了してください。長時間(12時間以上)、充電をしたままにしないでください。バッテリーの寿命が短くなることがあります。
- 電源コードや充電コードは、必ずプラグ部分を持って引き抜いてください。コード部分を持ちますと断線の原因になります。

充電についての注意事項



注意

- 購入後、初めてご使用になる前に必ず充電をしてください。
- 必ず専用のバッテリーと充電器をご使用ください。
- 充電する時は、必ず車いすの電源スイッチを「切」にしてください。
※充電中、車いすの電源スイッチを「入(走)」にしても走行できません。
- 雷時は、直ちに充電を中止し、電源コードのプラグを家庭用コンセントから抜いてください。
- 充電時間は、バッテリーの放電状態によって異なります。(最大6時間)
- 長期間ご使用にならない場合でも2～3週間に一度は充電してください。
- 冬場など気温が低い場所(0℃以下)では充電することができません。0℃以上(4.5℃以下)の風通しの良い室内で充電してください。
- 夏場など気温が高い場所で走行した直後のバッテリーは高温になりますので、充電の前に適温まで自然に冷ましてください。
- 各所コネクタが正しく差し込まれていないと充電できません。充電コードは、充電口の奥までしっかりと差し込んでください。
- バッテリーや充電器に衝撃を与えたり、落とさないでください。
- 充電器やバッテリーの上に物を置かないでください。
- 充電中は、充電器やバッテリーが40℃以上の高温になることがあります。触れないようにしてください。

運転及び操作のしかた

運転・操作前の確認事項

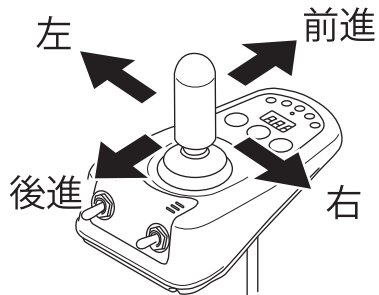
1. シートフレームと駆動フレームが正しく接続されていることを確認します。(P 7～9 参照)
2. 左右のクラッチレバーが下がっている(「電動」の位置になっている)ことを確認します。
3. ジョイスティック操作部の電源スイッチが「切」になっていることを確認して、バッテリーをバッテリーボックスに装着します。
※バッテリーボックスに異物がないことを確認し、奥までしっかりと差し込んでください。
4. 充電コードがバッテリーの充電口に差し込まれていないことを確認します。
5. ジョイスティック操作部の電源スイッチが「切」であることを確認します。
6. 車いすに乗車します。

運転・操作の手順

1. バッテリーがバッテリーボックスに正しく装着されていることを確認します。
2. ジョイスティック操作部の電源スイッチを「入－走行」または「入－座席」にし、バッテリーメーターにより、バッテリー残量が十分にあることを確認してください。

走行「入－走行」の場合

3. 速度切り替えスイッチで速度を選択してください。
4. ジョイスティック操作部の操作レバーをゆっくり倒してください。
 - ・前に倒せば前進、後ろに倒せば後進します。
 - ・左右に倒せばその方向に旋回します。※電源スイッチを「入」にしたときに操作レバーが倒れていると安全装置が働いて走行できません。操作レバーを中央の位置に戻してから電源スイッチを「入」にしてください。
※バックサポート角度(座～背)が112°以上の場合は電源スイッチを「入－走行」にしても走行できません。表示器に「座席警告マーク」が表示されます。その状態で操作レバーを前方に倒し、「座席警告マーク」が消えるまでバックサポートを起こしてください。
5. 停止させるには、操作レバーを中央の位置に戻してください。電磁ブレーキがかかり停止します。



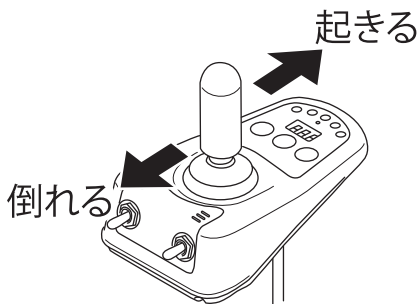
座席警告マーク

この表示は、バックサポート角度が112°以上であることを表しています。

リクライニング「入一座位」の場合

6. 操作ボックスの操作レバーを後方に倒すとバックサポートが倒れ、少し遅れてレッグサポートパイプが上がります。レバーから手をはなすと止まります。操作レバーを前方に倒すと、バックサポートが起き上がり、レッグサポートパイプが下がります。レバーから手をはなせば止まります。表示器には「座席マーク」が表示されます。

※電動リクライニングの動作は連続で行わないでください。目安として、10分間に2～3回程度としてください。



リクライニングをする際は、車いすの前方、後方に物がないことを確認し、操作してください。

リクライニング動作の際は、車いすの各部が連動して動きます。座席下部やバックサポートフレーム、アームサポートフレームの隙間に手や指、体、衣服の一部を入れないでください。ケガや事故のおそれがあります。



座席マーク

7. 車いすから降りる場合は、電源スイッチを「切」にしてください。
8. 車いすを介助者に押してもらう場合は、左右のクラッチレバーを上げて（「手押」の位置にして）ください。



運転・操作時の注意・警告事項

- 走行中電源スイッチを「切」にすると、急停止しますのでしないでください。
- 無線・携帯電話等を使用するとき、あるいは理学療法の治療を受けるときは、クラッチレバーを下げ（「電動」の位置にし）、電動車いすの電源スイッチを「切」にし、駐車状態にしてください。
- 電動車いすは、道路交通法上（第2条－3項－1号）歩行車として扱われます。歩行車としての交通ルールを守って安全運転を心がけてください。
- 歩道を走行し横断歩道を渡ってください。歩道のないところは、右側通行してください。
- 斜め横断はしないでください。
- 横断歩道では、一旦停止して安全を確認してください。
- スイッチ、操作レバーの操作は、ていねいにおこなってください。また、衣服を引っかけたり、強い衝撃をあたえないようにしてください。
- 二人乗りやけん引はしないでください。
- 使用者最大体重（積載物含む）が100kgを超える場合は走行やリクライニング操作をしないでください。
- スイッチ操作をするときは、必ず停止しておこなってください。
- 走行中、子供やペットを電動車いすに近づけないでください。
- 制動距離は条件によって変わります。停止操作は余裕を持っておこなってください。
- 屋内では、他の人に迷惑をかけないように必ず低速で走行してください。また、人通りの多い歩道も必ず低速で走行してください。
- 後進時は、後方の人や障害物を充分確認し走行してください。
- 電動車いすが何かにぶつかったまま操作レバーを倒し続けるのは故障の原因になりますのでやめてください。
- 車体から、身体の一部をはみ出さないでください。
- 衣服等が車輪にからまないよう、充分注意してください。
- 駐停車及びリクライニング動作は坂道や傾斜面を避け、必ず平地でおこなってください。
- 駐車するときは、クラッチレバーを「電動」の位置にし、電源スイッチを必ず「切」にして、子供等がふれないようにしてください。
- 運転に慣れるまで、安全な広い場所で充分練習してください。
- 高圧線やテレビ塔など強い電磁波が出ている場所での走行は避けてください。
- アームサポートやヘッドサポートを外した状態での使用はしないでください。
- アームサポートを跳ね上げた状態での走行やリクライニングはしないでください。
- 電子機器に雨水がかかる雨天時や水がかかる場所での使用は、機器の故障や誤動作のおそれがありますので避けてください。
- 濃霧、強風時等は見通しが悪くなり、危険をともないますので電動車いすの使用は避けてください。
- 雪道、凍結路での使用はスリップするおそれがありますので避けてください。
- 夜間の走行は大変危険ですので避けてください。やむをえず走行する場合は介助者に同行してもらってください。
- 次のような場所や状況下での走行は回避するか、介助者に同行してもらってください。
※ 人混み、交通量の多い道路、踏切、砂利道、でこぼこ道、防護柵のない道路の路肩、夜間走行、雨天、ぬかるみ、雪道、凍結路、濃霧、強風時、道幅の広い道路の横断歩道、狭い道、大きな段差や深いくぼみなど。
- 電動リクライニング操作をするときは、身体の一部や服装等を、車体の隙間に挟まないように注意してください。
- 電動リクライニング操作をするときは、車いすの周辺や操作レバーの周辺に物がないことを確認してから行ってください。

走行距離について

- 走行距離は、約15kmです。（算出条件等につきましてはP26「諸元・性能」を参照してください。）
- 走行距離は、走行状況やリクライニング動作の頻度によって変わります。坂道や悪路など電気を多く消費する場所を走行しますと短くなります。
- バッテリーは消耗品です。使用しているうちに働きは徐々に低下し、走行距離は短くなります。
- 冬場など気温の低い場所でご使用された場合の走行距離は、短くなります。
- 同じような使いかたをしていても、バッテリーメーターの減り具合が早くなってきたり、走行できる距離が次第に短くなってきた時はバッテリーの交換時期と思われます。そのまま使用しつづけますと急激に走行距離が短くなる場合があります。早めに新しい専用バッテリーに交換してください。

使用前点検(必ず行ってください)

- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シート・ベルト類・シートベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪タイヤの空気圧は適切かどうかご確認ください。(不足している場合は補充してください)
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないか、チューブがパンクしていないかご確認ください。
- 駆動輪の車軸のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- キャスト輪及びキャストフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

メンテナンス

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの空気圧の減少など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス(調節・補修・修理・部品交換等)はお買い上げの販売店にご依頼ください。
- 部品交換時は、必ず純正部品を使用してください。



禁止

- 電動モーター、制御装置、操作部は電気部品をたくさん使用していますので、水洗いは絶対にやめてください。
- ガソリン・シンナー・ワックス等でふかないでください。

保管方法

- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後固くしぼった布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。
- 保管するときは、クラッチレバーを「電動」の位置にし、電源スイッチを必ず「切」にして、子供等が触れないようにしてください。
- 屋内の湿気が少ない場所に保管してください。雨に濡れたり、湿気の高いところには保管しないでください。

不具合時チェックリスト

調子が悪いときは、以下の項目を調べてみてください。それでも問題が解消しない場合は販売店にご連絡ください。

症状	確認事項	対処方法
動かない	バッテリーが切れていませんか	充電するか、交換してください
	バッテリーが正しく差し込まれていますか	正しく差し込んでください
	クラッチは「電動」になっていますか	左右「電動」にしてください
	充電コードのプラグがバッテリーに差し込まれていませんか	充電コードのプラグをバッテリーから抜いてください
	操作レバーを倒したまま電源を「入」にしていますか	操作レバーを中立位置に戻してから電源を「入」にしてください
	駆動フレームが正しく車いすと接続されていますか	「シートフレームと駆動フレームの接続のしかた」に従って接続してください
	ジョイスティック操作部のコネクタが正しく駆動フレームに接続されていますか	コネクタを接続してしてください
	表示器に「座席警告マーク」が表示されていませんか (P20参照)	「座席警告マーク」が消えるまでバックサポートを起こしてください。(P20参照)
速度が遅い	車いすのタイヤの空気圧は適正ですか	タイヤに空気を入れてください
	バッテリー残量ランプが「要充電」になっていませんか	充電してください
バッテリーの減りが早い	バッテリーが温かくなっていませんか	走行した直後はバッテリーの温度が上がっています。充電が中断されることがあります。少し時間をおいて、自然に冷却してから再度充電を行ってください
	バッテリーは1年以上使用していますか	バッテリーを交換、もしくはリフレッシュ放電を行ってください

症状	確認事項	対処方法
振動する	タイヤがパンクしていませんか	タイヤ・チューブを交換してください
	駆動輪の取付けナットがゆるんでいませんか	販売店にご連絡ください
	ガスダンパーやキャスタ・補助キャスタの取付けボルトやナットがゆるんでいませんか	販売店にご連絡ください
充電しない	充電中ランプが点滅していませんか	バッテリーの温度が適正になるのを待ってから充電してください
	コンセントに正しく差し込まれてますか	正しく差し込んでください
	充電器の電源スイッチが「切」になっていませんか	「入」にしてください

電動動作ができない場合のエラーメッセージ

【操作ボックス表示器の表示内容と対処方法】

- 「E 0」常時表示される場合は、コントローラーの故障が考えられます。
使用を中止し、販売店にご連絡ください。
※部品交換などの際に一回だけ表示されることがあります。
- 「E 5」電動車いすが障害物等により動けなくなっていないか、お確かめください。
- 「E 6」左モーター、またはコントローラーの故障が考えられます。(通信エラー)。
使用を中止し、販売店にご連絡ください。
- 「E 7」右モーター、またはコントローラーの故障が考えられます。(通信エラー)。
使用を中止し、販売店にご連絡ください。
- 「H 0」操作ボックスの操作レバーを動かしながら電源スイッチを「入」にしていますか。
電源スイッチを「切」にして、操作レバーから手を離して、再度電源スイッチを「入」にしてください。
- 「H 1」操作ボックス、またはコントローラーの故障が考えられます。(通信エラー)。
使用を中止し、販売店にご連絡ください。

充電ができない場合のエラーメッセージ

エラーメッセージの表示と警告ブザーが「ピー、ピー」と鳴っていませんか。(10分間隔で3秒間鳴ります)。
操作ボックスの表示器に下記表示がされた場合、充電を中止し、販売店にご連絡ください。

- 「C 3」充電器の故障が考えられます。
- 「C 4」バッテリー温度センサーの断線、またはコントローラーの故障が考えられます。
- 「C 7」バッテリーの劣化・故障、またはコントローラーの故障が考えられます。

諸元・性能

機種名		NEO-PRリクラ45	NEO-PRリクラ60
タイヤ(後輪)サイズ		16インチ(396.5mm)	
速度 (km/h)	前進	高速4.5 中速3.5 低速2.5	高速6.0 中速4.5 低速2.5
	後進	前進速度の1/2	
重量(kg) ●バッテリー 含む	全体	約39.0	
	駆動フレーム	約16.5	
バッテリー		ニッケル水素電池 DC24V 9.0Ah	
駆動方式		後輪直接駆動	
制動方式		モータ発電 及び 電磁ブレーキ	
駆動モータ		30分定格出力 DC24V 100W×2	
充電器	電源	90~240V 50/60Hz 170VA±15%	
	充電時間	最大6時間	
	付加機能	リフレッシュ放電機能 0.5A	
連続走行距離 (km)		15	
		算出条件: 電動車いす JIS9203:2006 11.1.13項(1)式による 常温25℃、乗車重量75kg、最高速度、バッテリー新品満充電、 平坦路直進連続走行時	
実用登坂角度(度)		6	
使用者最大体重(kg)		100以下(積載物含む)	

※製品の改良のため予告なく諸元・性能を変更することがあります。

公道を走行される時のお知らせ

NEO-PRリクラは、道路交通法で定められた電動車いす定義より外れております。
(全高が109センチ超のため。)

NEO-PRリクラで公道を走行される場合は、最寄の警察署に申請してください。
申請方法等の詳細は、最寄の警察署にてご確認ください。

※道路交通法で定められた電動車いす定義より外れるものとは、公道走行時の電動車いすの車体
寸法が全長120cm、全幅70cm、全高109cmを超えるものをいいます。



ウレタン素材には 寿命 があります。

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、販売店に部品交換を依頼してください。

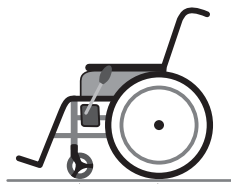


クッション
キャスト輪



床材へのゴム汚染についてのご注意

- 塩化ビニール製のタイルやクッションフロアー等は、ゴム製品が接することで、床材の成分とゴムの化学反応により、ゴム汚染とよばれる床の変色が発生する場合があります。
- ゴム製キャスト車輪やゴム製後輪タイヤを装着している車いすを塩化ビニール製の床で使用する場合、床に直接ゴム部分が触れないように、カーペットを敷くなどの対策をとってください。
- 床材へのゴム汚染の発生は一般的な事象であり、製品の瑕疵(かし)に起因するものではありません。



キャスト車輪
(ゴム製)

後輪タイヤ
(ゴム製)

ジョイスティック操作部の角度の調節のしかた



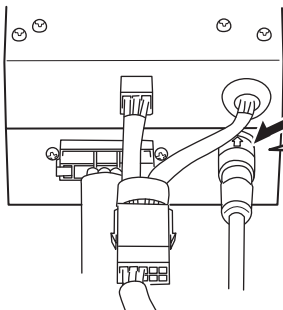
ジョイスティック操作部の角度の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にて相談・ご依頼ください。



注意

ジョイスティック操作部の角度調節作業の際は

- < 1 > 左右のクラッチレバーを下げて、ジョイスティック操作部の電源スイッチを「切」にし、駐車状態にしてください。
- < 2 > バッテリーを車いすのバッテリーボックスからはずしてください。
- < 3 > ジョイスティック操作部のコードと駆動フレームの黒いボックスを接続しているコネクタをはずしてください。



ジョイスティック操作部のコードと駆動フレームの黒いボックスを接続しているコネクタをはずします。



コネクタの先端部を持って、しずかに引き抜いてください。



コネクタを回したり、先端部以外を持って無理に引っばったりしないでください。破損のおそれがあります。

角度の調節方法

ボルトを通す位置により、ジョイスティック操作部の角度を10度刻みで調節できます。

ジョイスティック
操作部取付け
パイプ

ジョイスティック操作部
取付用ボルト

平ワッシャー

スプリングワッシャー

袋ナット

ジョイスティック操作部の下部プレートとジョイスティック操作部取付けパイプをとめている、2本のジョイスティック操作部取付用ボルトを通す位置を変更することによりジョイスティック操作部の角度の調節ができます。
調節後は、2本のジョイスティック操作部取付用ボルトとナットをしっかりと締めて、プレートを固定してください。



注意

- 2本のジョイスティック操作部固定用ボルト、ナットが確実にしまって、ジョイスティック操作部がしっかりと固定されていることを確認してください。
- ジョイスティック操作部の角度調節時にコードに無理な力がかからないように注意してください。

使用工具



4mm六角レンチ
8mmスパナ

ジョイスティック操作部のレバーのバネ力の調節について



ジョイスティック操作部のレバーのバネ力の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談・ご依頼ください。



注意

ジョイスティック操作部のレバーのバネ力の調節は、ご利用者様自身や介助者で行わず、お買上の販売店にお問合せ、ご依頼ください。

別途部品の購入が必要となる場合もあります。

MEMO

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後 1 年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書でご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限りです。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

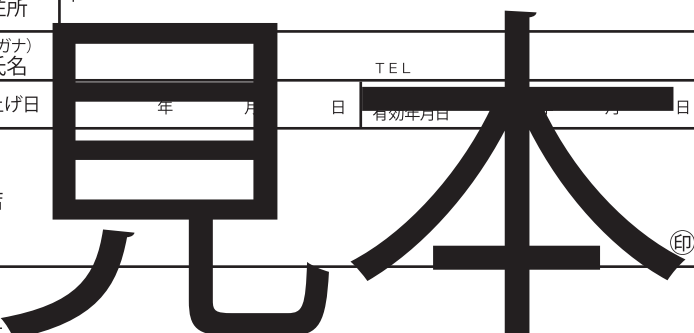
保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上記記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1 年間」無償にて修理いたします。

機 種			
お客さま	ご住所	〒	
	(フリガナ) ご氏名	TEL	
お買い上げ日	年 月 日	有効年月日	月 日 まで
販 売 店			
総販売元			
製 造 元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現 3 5 番地の 2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787		

日進医療器株式会社

本 社 〒481-8681 愛知県北名古屋市中村権現 3 5 番地の 2
TEL<0568>21-0635(代) FAX<0568>23-2787
東京営業所 〒112-0011 東京都文京区千石 2 丁目 2 - 1
TEL<03>3943-5200(代) FAX<03>3943-5222
大阪営業所 〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6 - 1 6 - 1 0
TEL<06>6323-8265(代) FAX<06>6326-2554
九州営業所 〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町 2 丁目 3 - 8
TEL<092>513-5036(代) FAX<092>513-5038

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。